

令和 7 年 第 1 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 7 年 1 月 15 日（水） 午後 2 時 00 分
- 2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室
- 3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監
- 5 開 会 午後 2 時 00 分
- 6 令和 6 年第 12 回教育委員会定例会会議録の承認について
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、丹羽委員 署名。
- 7 教育長報告
（1）一般事務報告
報告第 1 号 教育長職務代理者の指名について
教育総務課長より説明。

（2）専決事務報告 なし
- 8 議 事
議案第 1 号 昆虫標本維持管理会計年度任用職員の任命について
生涯学習課長より説明。
鈴木教育長 | （委員全員に諮って）可決する。
- 9 その他
（1）教育長報告
1 西田敏行さんのこと（「よみうり寸評」読売新聞）
子供たちには、西田さんのような志を持って、前に進んでほしい。今月末に、大河原中
の立志式がある。今の夢を大いに語ってほしい。

2 「カリスマ校長」の、その後（末松裕基）

いわゆる「カリスマ校長」が異動、退職した後の、学校の状況を調査したもの。

学校の現実の姿に冷静に向き合って、授業作りとか、子供のためとか、そういうような研究とか教育を重ねて学校作りに努力している先生方が、たくさんいたというようなことが書いてある。

3 インクルーシブの理想と現実（妹尾昌俊）

インクルーシブ教育は、みんな平等に障害を持つ子も関係なく同じ場所でということですが、理想と現実があって、なかなかうまくいかない。

つまり理想を実現するためには、多くの経費、あるいは教員配置が必要である。まだ、日本はそこまでは至っていない。学校の見合定数を増やすための義務標準法の改正が待たれるところである。

4 「転移する学力」（奈須正裕）

「見方・考え方」を他の領域、あるいは他の勉強にも活かすことが書いてある。

マット運動してうまくいかなかったことが、跳び箱運動のことを思い出し、それが学びに繋がっていったという話。なかなかその「見方・考え方」を活かすということは難しい。繰り返し行わなければならない。

5 笠井健一先生の授業

笠井先生の指導案を読むと、算数という教科の本質と子供のつまづきをしっかり捉えて、授業を構成していることが分かる。このような指導案は誰もが書ける内容ではないが、笠井先生が求める授業について、私たちは少しでも近づく努力を続ける必要がある。

6 個に応じた指導の充実

（１）個に応じた指導－総則の視点から－（教育課程企画室）

筆者は最後のⅤ「更なる実践の展開に向けて」で『単元内自由進度学習』に言及している。「…単元内自由進度学習は効果的な実践となりうる提案の一つであることは事実である。しかし、どのような教育方法でも同じことではあるが、それを効果的に実施していくためには、教師による子供一人一人の丁寧な設計等、様々な点において教師が力を付け、指導性を発揮し、取組を進化・成熟させていく必要がある。

（２）算数科における個に応じた指導の充実（笠井健一）

ここでもやはりつまづきに応じた指導を繰り返し言っている。やはり授業は、深い教材研究と、それから子供理解と、今まで私達がやってきたことは普遍的な部分で必要。プラスして、子供同士が学び合う時間、対話的学びがポイント。

7 社会科の授業づくり

(1) 社会科における主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 (小倉勝登)

(2) 社会科における資質・能力の育成 (小倉勝登)

(3) 社会科授業づくりは「単元で考える」 (小倉勝登)

文科省の小倉勝登教科調査官の論説。キーワードは「社会科の授業は単元で考えること」であり、「問題解決的な学習過程の充実」である。理科と同じと言ってもよい。

社会科が「好き・どちらかと言えば好き」と肯定的な回答をしている小学5年生、6年生は低く、「社会科は生活に役立つ」と感じている子は高い。社会科は「あまり好きではないが、役に立つ」と思っている。「楽しい社会の授業づくり」を目指すことが必要。

8 理科「問題解決の力の育成とその有用性」 (山中謙司)

北海道教育大学旭川校の山中先生の論説。理科も社会科と同様に「問題解決の力」を育成する教科である。

最終的な判断や価値の基準を決めたり、情報を熟考・評価したり、想定外の事態に対処したりなどの、AIにはない人間の強みを未来の社会を担う子供たちが獲得するためには、学校教育において様々な問題に対応するための問題解決の力を育成することが、ますます重要。

6 その他

各種授業、研修会、会議、事業の様子等について資料により説明。

丹 羽 委 員	P15 いわゆる今年、戦後80年だそうです。77年前に、戦後終わって3年後には、この民主主義というか、根本原理がそこでできたんですね。 つまり、占領下であったけれども、それは未だに生きてるという話ですよ。今でも言えることです。人間の尊重である。この精神に従って、まず要求されるのは、生徒の個性を重んじ、それを正しく伸ばしていくことでなければならない。」アメリカのそういう教育方針だったんでしょうね。すごいと思いました。 それからもう一つですね、そのことを受けてですが、資料の2ページです。笠井先生の話。この中で、笠井先生は、分からない子を分かるようにするという、子供への深い愛情を持って授業をされているとまとめられておりました。 要するに、あの77年来変わっていないけれども、いろんな生徒の子供への教育のやり方はあるけれども、基本的にこれがなければ、教育は成り立たないんだらうなという感じが、これを読ませていただいて感じたところでした。
---------	--

一 盃 森 委 員

体力テストの話。県教委で、体力・運動能力向上センターというものを作った。コーディネーターですよ。県内に2人、元教員が担当されて南の方を回ってるんですかね。やはりこのような取組が、大河原で言えば仙台大学との連携・提携というようなことが大きいと思う。やはり、コロナで3年、4年も、なかなか運動制限で、子供たちも大変な思いをした時期を経て、2年経つわけだけでも、いろんな形で取り組みが徐々に成果を見せてきているというのは非常に喜ばしい。

日常生活の中で、外遊びと言いましょうか、体を動かすウェルビーイングじゃないですけども、やはり小学生の時期からね、自分の体を健康について考えて生活をする事ができるような子供に育てていきたいなというふうには思いますよね。

それから学力向上策についてですけども、本当に主体的対話的で深い学びというふうなことを授業改善の柱にしてずっと取り組んでおられる。それぞれの学校で創意工夫しながら取り組んで、いよいよ評価のところまできたので、本当に何回も話題になるんですけども、子供の力として身に付いてほしいなというふうに願うばかりですね。という感想でした。

あと、カリスマ校長のお話が非常に私も興味深く見たんですけども、改革ということで言えば、私はやはり主体的対話的で深い学びっていうふうなことで授業を作っていくっていうか、変えていくっていう、それが最大の学校改革、今求められてる学校改革なんだろうなって思う。

やはり地道に今求められていることを、コツコツとやるっていうことに尽きるんだろうなっていうふうに思います。

いろんな取り組みをされる校長先生方を見てきましたけれども、他の学校との足並みを合わせながら、その上で、その学校の校長先生なりにカラーを出していくっていうふうなことが、多分一番大事なんだろうなと思います。

それから、社会科の話で、社会科の大変なのは、資料なんですよ。

資料は変わるんですよ。自分の作ったものが永遠に正しいかっていうと、決してそんなことはないわけですよ。

世の中変わると変えなきゃいけないっていうふうなこともある。

それこそ魚だって野菜だって果物だって、今は取れる場所、取れる物、そういうのが全然違いますよね。けれどもそれをちゃんと今の姿を取り上げながら教材を作っていかなきゃなんないっていう大変さがあるんですよ。

だから私は社会科の先生は、より良く、連携して教材開発をしてほしいなっていうふうに思うんですよ。1人では、なかなかやりきれないと思います。それで、小倉先生の話で、具体的に示してある事例をこうやって見せていただく。これを参考にしながら、是非、授業を作ってほしいって思うん

一 盃 森 委 員	ですよね。どの教科でもそうなんですけど、今回のこの資料で、改めて勉強させていただきました。 ありがとうございました。 以上ですけど、小野寺先生、公開授業の子供の様子は、いかがでしたか。
小野寺専門監	子供たちは本当に素直で、笠井先生が想像していた誤答がやっぱり出ます。そして、分かっている子が分からない子に説明するが、納得いかない顔をしているんですよね。 やはり、分からない、納得いかない子供に対する配慮っていうか、そういう説明が子供の中から出てくると、最後は納得するんだなっていうのはすごく感じました。
片 倉 委 員	子供を見てると国語とか算数とかに目が行きがちというか、社会の予習とか復習とか一緒に子供がやってて、社会の資料作り大変だなと思って見て、また、社会は、子供たちがあまり好きではないが役に立つっていう割合が多いっていうのを書いてあって、意外だなと思いました。 社会科見学だったり体験とか、いろんな授業があったりする中で、子供たち好きなのかなって勝手に思っていたが、そうでもないっていうのが分かった。社会は先生方の準備が、授業作りが大変なんだなと思って読んでみて思いました。
林 委 員	狭い視野で話してしまうかもしれないのですが2点だけお話させていただきます。資料の4番の「転移する学力」を読ませていただきながら、やっぱり先生方は、小学校も中学校も超えて、どこに繋がるのかっていうのを調べる、知るっていうことはすごく大事なんじゃないかなというふうに思いました。 小学校6年生のものが中学校1年生の教科書に丸々同じ問題が載ってたりとかするわけですよね。そうすると、そこを分かっていたら、既習のものと新しく気づかせることが分かって、あそこを使えばいいっていうのが分かってくるっていうふうに思っていて、大河原ではもう既に中学校と小学校の先生方が一緒になって研修会を何度も開いていらっしゃるっていうのは知ってますので、そういう教材研究はされてるのかなというふうに思いました。 私は今、ケアハウスに行っており、中学校の教科書見るとすごいんですよね。小学校に中学校の教科書って図書館にありますか？ 私がいた自分の学校では、中学校の教科書を入れてもらって、社会とか、中学校で同じことを詳しく学ぶんですよね。 そうすると調べたい子は調べられる状況を作ってあげるっていうのがすごく

欲しくって、自分が学校に勤めたときは図書館の先生にお願いをして、小学校の図書室に中学校の教科書や資料集とか世界地図とかを入れてもらいました。調べたくてたまらない子は、今タブレットで何でもできると思うかもしれないんですが、開いて見るっていうのは、また違う知識の入り方をすると思うので、図書室に、ぜひそういう小学校の教科書、例えば6年生の教科書が中学校の職員室にあってもいいかなって思ってるんですけど、小学校では何か、中学校のいろんな資料とかがあったら学びたい子にとってはとてもいいと思う。中学校だったらこんなこと勉強できるんだってねっていうことが、どこか知れる場所があればいいなって、そこが図書館であつたらいいなっていうふうに思っていました。必ずその小学校で学んだことが中学校で必ず繋がるので、その垣根を越えて、やり取りができるっていうことをすごく続けてほしいなというふうに思いました。

2点目は、後半の資料でたくさん授業作りの資料があって、本当にわくわくして読み進めて、やはり個別最適な学びと協働的な学びが、両方、今必要だになっていうふうに思っていて、子供たちはどうしても自分のタブレットがあるので、1人で勉強することに集中するのは得意なんですよね。

ですが、そうするとどうしても先ほど単元内自由進度学習のお話もされたんですけども、孤立した学習になってしまって、授業は、せっかくこんなにたくさんの、みんな違ってみんないい子供たちが集まっているのが学校なのに、その違った考えとか、見方を交流できないなんて、なんて寂しいことだっているというふうに思うわけですね。

だから、個別最適な学習で自分の能力に応じた個性に応じた学び方だとか、その習熟度に応じたドリルっていうのはもちろんいいんですけども、逆に学校は対話的な学習を組み込んで、一緒に、できない子も理解遅い子も早い子も、一緒に成長していけるっていうのが学校の一番のいいところだと思っています。そこをすごく大事に先生方は単元を計画するときに、単元設定をするときにうまく配置しながら、時には自分自身の力に向き合って、違う意見を取り入れることで自分も成長していけるような、そういう場を持つてほしいなというふうに思っています。

何より先生方も、主体的・対話的でなきやいけないっていうふうに思うので、こういった場が持てるように努めていただければなというふうに思います。子供たちは一緒に学び合う中で、分からないっていうことが素直に言えて、教えてって言えるような学校風土ですかね。挑戦して行ってほしいなというふうにお願ひばかりになりましたけれどもそんなふうに思っているところです。

片 倉 委 員	うちの娘が小学校6年生とかになると歴史とかやったりするんですよね。もうちょっと詳しく知りたいってなったときに、学校の図書館だと日本の歴史とか漫画とか、読みやすいものしかなくて、もうちょっと詳しく見たいなっていうときに、お兄ちゃんの中学校の教科書だったり資料集を借りて、それを見て調べてたなっていうのを思い出しました。小学校でもっと詳しく調べたいなっていうときに、図書室に社会だったり理科の資料集的な中学校の物があると、小学校では予習、中学校になるとそれが小学校でちょっと見たなというのは復習になって、とてもいいと思いました。
---------	--

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年2月7日(金)午後4時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時30分

令和7年2月7日

署名委員

署名委員